



華麗なる日本染織の世界

ぬい
おり
繡
と
織

企画展

おり

Museum Collection Exhibition

Embroidery and Weaving: The Gorgeous World of Japanese Textiles

染織品に模様を施す加飾技法には様々ありますが、その中でも古代中国で高度な発展を遂げた織の技法は、日本では格式高いものとして受け入れられました。また刺繡も、飛鳥時代より仏の姿を繡であらわす繡仏が制作され、織とともに重んじられました。中世から近世には染の技法が発展します。平面性の強い染と、糸の盛り上がりで立体感を表現できる刺繡は相性がよく、両者を組み合わせた小袖の優品が多数生み出されました。一方で、武家の式楽として隆盛した能の装束には重厚な織が多用されました。

根津美術館のコレクションの礎を築いた初代根津嘉一郎（1860～1940）は、古美術品の豪快な蒐集で名を馳せましたが、その意欲は染織品にも向けられました。記録を紐解くと、多い時には70点以上の染織品を一度に購入するような大胆さが見られ、30年近くに渡って蒐集したものの中には、法隆寺や正倉院伝来の錦や刺繡裂をはじめ、大名家伝来と思しき唐織や縫箔といった能装束、江戸時代の女性が晴れ着として着用した小袖など、幅広い時代にわたる染織品が含まれます。途中、売却・譲渡や戦争による散逸はありましたが、400余点を数える現在の所蔵品の一部には、伝来や旧所蔵者が判明・推測されるものもあります。

この企画展では、織と刺繡の優品を軸に、嘉一郎が晩年まで継続的に集めた館蔵染織品を一堂に展示します。

一年で最も大きな節目である年末年始、華やかかつ厳かな染織品の数々をお楽しみください。

2023年

12月16日(土)～1月28日(日)

2024年

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZUMUSEUM





からおり きんじしだれざくらはなぐるまもよう
唐織 金地枝垂桜花車模様
1領 絹
日本・江戸時代 19世紀
根津美術館蔵

八重の枝垂桜に花車を組み合わせた大ぶりの模様を、段ごとに向きを変えてあらわしている。唐織は能装束の中でもとりわけ豪華なものが多いが、ことに平金糸を全面に織り込んだ総金地の本作は、絢爛さと格調の高さを兼ね備える。



くじょうけ さ べにじはなからくさもようおうどん
九条袷袷 紅地花草模様黄緞
1領 絹
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



(部分・拡大)

牡丹や菊、扇、貝などを織り出した3種類の黄緞を用いて仕立てた九条袷袷。黄緞は経糸に絹糸、緯糸に木綿糸を用いた織物のことで、模様は絹の色糸や平銀糸であらわされる。中世から近世初期に中国から輸入され、以降日本で盛んとなる平金銀糸織物の生産にも影響を与えたと思われる。初公開。



じょうだいざれ みどりじくさはなもんししゅう
上代裂 緑地草花文刺繡
1枚 絹
日本・奈良時代 8世紀
根津美術館蔵

緑の綾地に刺繡で華やかな唐花風の草花文をあらわした三角形の裂。これは、仏殿の内外を荘厳するための幡の最上部を飾った幡頭と考えられる。



きつけ べにじろうごむか とりまる もよう
着付 紅地鱗向い鳥丸模様
1領 絹
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

鱗文と向い鳥丸文を、大胆な色づかいで大きく繡いあらわした能装束。渡し繡の技法や袖幅が身頃よりも狭い形態は、桃山時代から江戸時代初期の小袖の特徴を示す。表着の下に隠れる着付でありながら全面に凝った刺繡が施されている点が心憎い。初公開。



ふりそで りんず しきりほうおう もよう
振袖 綸子地桐鳳凰模様
3領 絹
日本・明治時代 19世紀
根津美術館蔵

白・紅・黒と地色を変えて、同じ模様を刺繡と鹿子絞であらわした三襲の振袖。武家で重んじられた婚礼衣装の様式を、豪商が踏襲して仕立てたものであろう。

P.1 掲載作品 (すべて部分図、当館蔵。)

左上: 単衣 紫紵地御簾に猫草花模様 (日本・江戸時代 19世紀)
左下: 上代裂 緑地草花文刺繡 (日本・奈良時代 8世紀)

右上: 唐織 紅薄縹段鉄線唐草模様 (日本・江戸時代 19世紀)
右下: 唐織 紅地青海波に松帆浜辺模様 (日本・江戸時代 19世紀)

展示室 5 中国の故事と人物

史実や逸話に基づいた中国の故事は、絵画の題材にも取り上げられています。なかでも人物画は、後世の人々の規範や理想の姿として長く愛好されました。

寒山と拾得は中国・唐時代の天台山国清寺にゆかりのある隠者で、寒山は文殊菩薩、拾得は普賢菩薩の化身とされる。禅宗で大変好まれた画題であった。本作品では、うずくまり目を閉じる愛らしい童児の姿に描かれる。



かんざん じつとくす げいあい
寒山拾得図 芸愛筆
1 幅 紙本墨画
日本・室町時代 15～16世紀
根津美術館蔵
小林中氏寄贈

展示室 6 寿茶会—来福を願う—

新年、茶の湯ではその年の干支や吉祥文が施された道具を用いて、一年の来福を祈ります。初春を寿ぐ茶道具約 20 件の取り合わせです。

祥瑞とは、江西省景德鎮窯で日本向けに生産された染付。総体が宝文や松竹梅文などで埋め尽くされていることから、吉祥の器として好まれる。



しょうずいみかんみずさし
祥瑞蜜柑水指
けいとくちんよう
景德鎮窯
1 口
中国・明時代 17世紀
根津美術館蔵

展示室 3 仏教美術の魅力—平安時代後期の仏像—

平安時代後期の彫刻は、時の宮廷や貴族の美意識を反映しています。この度は、優美で穏和な木彫仏 3 件をご覧ください。

本像の柔和な顔立ちや、細身でゆったりとした体軀の肉取りは、平安時代後期に仏師定朝（?～1057）が完成した和様彫刻の典型的な作風を示す。像容は非常に整っており、12世紀前半頃の中央における制作とみられる。その体勢から、もとは阿弥陀など三尊像の左脇侍であった可能性がある。



ぼまつりゆうぞう
菩薩立像
木造彩色
日本・平安時代
12世紀
根津美術館蔵

開催概要

展覧会名 企画展「^{ぬい}繡と^{おり}織—^か華麗なる^{にほんせんしよく}日本染織の世界—

日時指定予約制

ご来館前に当館ホームページでの日時指定入館券の購入にご協力ください。
(招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)

主催 根津美術館

開催期間 2023年12月16日〔土〕～2024年1月28日〔日〕 (12月25日～1月4日休館)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)

休館日 毎週月曜日、ただし1月8日(月・祝)は開館し、翌9日(火)は休館
※年末年始12月25日(月)から1月4日(木)まで休館

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円)

- ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券(一般1400円、学生1100円)も販売しております。
(ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)
- ・2023年12月12日〔火〕より当館ホームページで予約を受け付けます。
- ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、
B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問合せ Tel. 03-3400-2536 (代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所/村岡
Tel. 03-3400-2538 (直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

次回展

企画展「魅惑の朝鮮陶磁」 / 特別企画「^{おくごうらいちやわん}謎解き奥高麗茶碗

2024年2月10日〔土〕～3月26日〔火〕

古くから日本の陶磁器に強い影響を与えてきた朝鮮陶磁。館藏品を中心にその歴史を概観するとともに、
高麗茶碗の魅力を見つめなおします。展示室2の特別企画と共にお楽しみください。



左: 粉青印花牡丹文厨子 朝鮮・朝鮮時代 15世紀

右: [特別企画] 中尾唐津茶碗 銘 福寿草 日本・桃山時代 16世紀
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2023.10.)